

彙報

京都文科大學哲學科本年度卒業論文題目

△印は選科生
○印は委託學生

哲學專攻

現代哲學序論(認識の現象學的考察)

意識と對象との關係に就いて

シュライエルマツヘル宗教論批判

西洋哲學史專攻

グノーシスの研究

印度哲學史專攻

印度輪廻思想の變遷

耆那教の主要教理に就て

支那哲學史專攻

孔子の仁

二程子論

心理學專攻

ゼームス、ランゲ說に就いて

倫理學專攻

宗教倫理

絶對論的自己實説及其發展

The realistic theory of life, its meaning and criticism.

△藤井龍智
△宮村義也

教育學教授法專攻

性別と教育の教育學的研究序論

兒童道德意識の發達

プラトウの教育説とフイヒテの教育説

兩性共同教育に關する研究

宗教教育の方法論

教育に於ける宗教的要素

性徳教育論

筋肉運動主義教育

希臘教育思想の發展(紀元前四五〇年頃迄)

教育思想史上に於けるルツソの位置

美學美術史專攻

滑稽論

社會學專攻
植民の基礎としての野蠻人の心理

哲學倫理學會

四月十六日學生集會所に開催す、西田朝永藤井三教授、卒業生學生等二十餘名參會す。本會は雜談會とし、次の講話あり。

サロモン・マイモンの話

西田教授

末包留三郎
△高橋俊乘
○龜山宥海
吉田孫一
守屋徳夫

土田茂
務臺理作
松原寛平
山田保雄
市川勝道
鹽崎達人
嵯山宗秀
△平田霜初
福富一郎
高橋博志

ポトランドの猶太人の子として生れ、貧困不遇の漂泊生活の間に、天稟の才と渴するが如き知識慾とによつて、深き哲學的思索に入り、當時學會を風靡したるカント哲學に就て獨創的なる見解をたて、カントをしてわが反對者中、彼ほどによくわが哲學を理解したるものなし、と評せしむるに至りし鬼才の生涯の物語ありたる後、マイモンが物自體の極限概念としての意義を深め、ラプニツの微小表象に關係せしめて物自體を意識の微分となしたることにつき、實在を知識の極限としてその中に無限を含むものと考ふ可きことを極めて暗示的に説かる。

心理學讀書會

四月三十日午後三時より、心理學實驗室に於て開催、

○ヴント教授、祭祀説話論

○仙臺横須賀視察談

石神君は次の如き順序を以て、ヴント教授の祭祀説話論の大意を紹介し其れに對する批評を述べられた。

一、祭祀説話の意義

二、模範的祭祀説話

デメーター説話(エロイジス祭)

ディオニソス説話(オルフォイス祭)等

三、基督説話と佛陀説話との比較

次に野上教授は主として横須賀の砲術學校、水雷學校等に於ける實驗心理學的研究の模様を簡單に紹介せられ、併せて其等に對する感想を述べられた。

宗教研究會大會

四月二十八日(日)午後二時より文科大學第七教室にて開催、

一、諸宗教の東遷と中央亞細亞

文學士 羽田 亨氏

一、般若經に於ける眞如觀(特に起信論を顧慮して)

文學士 木村 泰賢氏

來會者松本、樺、波多野各教授、日野、寺本各講師、學士學生その他會員等約二百名、五時閉會、尋て學生集會所に於て晚餐會を開けり。

宗教學讀書會

四月廿九日午後六時半より學生集會所に於て例會を開き次の講演あり。

(W. Wundt: Die Religion als psychologisches Problem.)

文學士 石神 徳 門氏

右はヴントの民族心理學中神話宗教の部末部の一節にて、浩瀚なる事實記載の終に結論的に論述せるものに係り、氏が宗教及宗教心理學に對する態度を知るに最も適切なるものなればとて石神學士は詳細に其の内容を紹介して、教授及諸學士の之れに對する所感を叩きたり。波多野教授、赤松、宇野、海野、西野諸學士、出席す。